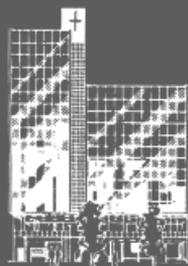




お茶の水聖書学院  
NEWS

〒101-0062  
東京都千代田区神田駿河台2-1  
OCCビル2F  
TEL 03-3296-1005  
FAX 03-3296-4641  
e-mail office@obi-net.com  
Web http://www.obi-net.com  
お茶の水聖書学院後援会



# 神学教育を振り返って思うこと



本学院理事 堀 肇

今年はお茶の水聖書学院創立20周年記念、また一般社団法人への移行という記念すべき年です。この歴史的に意味のある年を迎え、一教会の牧師として、心から「おめでとうございます」と、また理事・講師として、この歴史の重みをしっかりと受け止め、まず感謝の祈りを捧げたいと思います。

さて、主の導きにより本学院講師を務めるようになって今年で六年目。地方の神学校での奉仕を含め、まず教師生活は三十二年目になります。私はこの経験を通して二つのことを考えさせられました。

まず担当科目に関して。その前半は現代神学、キリスト教倫理、キリスト教弁証論、新約聖書神学などの

組織神学関連科目を、後半はある必然的な契機があつて牧会心理学、牧会カウンセリングなどの実践神学を担当し、今に至っています。その他、大学では家族心理学や発達心理学などを教えてきました。このように多くの授業を担当することは私の本意ではなかったのですが、様々な事情があつてこうなつてしまいました。

しかし今振り返って思うことは、私にとつては、これがよかつたということだと思います。それは人間の持つ複雑で難しい諸問題をホリスティック（包括的）に考える力になつたこと、取り分け、今、私が携わつている臨床牧会カウンセリングには神学と心理学、また広い人間学の素養を求められることを考えると、多くの科目を教えてきたことは意味のあることでした。また本学院で教えるための良き備えともなつたことは神の摂理であつたと考えています。

もう一つ考えさせられてきたことは、どのような科目を教えようとも、神学教育は客観的知識を提供すればよいということではないということだと思います。つまり神学概念や聖書知識を教えるだけでは不十分なのです。このことを身に沁みて思うようになって来ました。そもそも教育と

いうものは自分の実存をかけなくてはならないもの。分けても神やキリストを論ずる神学のような学問ではその対象は生ける人格ですから、単なる客観的な研究対象にしてしまつてはならない、いや出来ないということだと思います。

この問題についてアリストター・マクグラス（現在、ロンドン大学教授）はこう言っています。神学とは「心と知性に影響を与える何かです。…：すなわち信仰についての客観的な内容と信頼という主体的な行為の両方に関わつていきます」、また「神学教育とは単にテキストと格闘するものでもなく、生ける神と格闘することである」と。これは信仰と知性の統合と言ふべきもので、私はこれには深い「靈性形成」が必要ではないかと思わされています。学問的レベルが高くなればなるほど必要になつてくるのではないかと。

三十年余の神学教育を振り返つて、多科目を教えなくてはならなかつたことの摂理的な意味と、神学教育の特殊性に関わる課題を記してきましたが、この経験が幾らかでもお茶の水聖書学院の神学教育の発展に資するものとなるならば嬉しいことです。本学院のいよいよの充実と発展を祈りつつ。

2010年  
3月6日

## 第17回お茶の水聖書学院卒業式報告

副学院長 藤原導夫



ちは喜びの中にも緊張した面持ちで最前列の席で式に臨みました。

卒業式は音楽科講師の斉藤とし子先生による奏楽と学院長代行の世良田湧待先生の司式によって進められました。

OBI講師の西満先生の開会祈祷、学院長の増田誉雄先生の挨拶、教会音楽科生の平田仁美姉による賛美、OCC理事長の村上宣道先生によるメッセージ、と厳かな中にもなごやかな雰囲気の中でプログラムは進みました。

3月6日(土) 午後1時より、OCC8Fチャペルにて第17回卒業式が行われました。聖書科本科5名(男性1名、女性4名)、教会音楽科1名(女性)の方々がそれぞれの学びを修めてこの日を迎えられました。

会場には卒業生のご家族、所属教会の牧師、教会の兄弟姉妹、OBIの卒業生、在校生、教師の方々の姿が見られました。そのような多くの方々に見守られ、卒業生た

祝辞は、山崎製パン代表取締役社長の飯島延浩氏、立川駅前キリスト教会の高橋和義牧師、OBI卒業生の浪井弘子姉によって述べられました。祝辞を述べてくださった方々の言葉は、卒業生の心にしつかりと刻まれたことでしょう。

OBIを卒業したことを証する卒業証書が学院長からそれぞれの卒業生に授与され、卒業生答辞は梅澤近子姉、記念品贈呈は鈴木ますみ

姉、派遣祈祷はOBI講師の堀肇牧師、閉会祈祷は藤原導夫によってなされ、式は祝福のうちに終わりました。

### 卒業によせて

第17期卒業生 鈴木ますみ

神学校で学び始める約1年前、私は一つの夢を見ました。それは、机の上に高く積み上げられた原稿用紙の束で、その1ページ目には表題「それでもあなたは私に従いますか?」と書かれてありました。どうやら、夢の中で私は卒論を仕上げようとしている最中で、メ切りギリギリの状態のようでした。夢から覚めた私は、何か不思議な感覚に包まれていて、その時は(大卒卒業から30年近く経つのにまだこんな夢を見るんだ。それにしても、神様に従い続けるのは当たり前なのになあ...)などと思っていました。そしてその後、必要を感じてOBIの門を叩いたのですが、その時にはこの夢のことなどはすっかり忘れていました。

OBIでの月日はまるでこの世の天国のようで、新しいことを学ぶという期待感を絶えず抱いて授業に臨みました。先生方は、私の

稚拙な質問にも丁寧に答えてくださり、その言葉から神様に対しての篤い信仰が伝わってきて、聞く私の心はいつも感動であふれていました。往復約3時間の道のりは、決して短いものではありませんでしたが、『行きは期待』、『帰りは感動』と本当に幸いなひとときでした。

神学校で学ぶということが、同時に神様からの訓練であると知ったのは卒業を控えた最終学年のことでした。それは、あたかも「このままでは卒業はまだだよ!」と神様が囁いていたかのように、これまで信仰生活で直面した事のないような様々な事柄が連続して起きました。そしてこの時、私はあの夢を思い出したのです。神様は私に繰り返し繰り返し問うておられます:「それでもあなたは私に従いますか?」と。

最後の1年は厳しい訓練の時でしたが、卒業式の中で派遣祈祷をいただいた時、新しいスタートの始まりを感じました。主の導きによりOBIで学ぶことができ、またした事を心から感謝します。遣わされた場所で神様のお導きのままに一步一步従って歩んで行きたいと願っています。

# 第20回お茶の水聖書学院入学式・始業式報告

## 同窓会長 戸川偕生

お茶の水聖書学院入学式・始業式が4月5日(月)午後6時30分より、OCCビル8階チャペルで持たれました。

今年の入学者は、聖書科本科10名専修科1名、聴講2名、教会音楽科2名、計15名です。

式は、音楽科講師内藤真奈先生による奏楽のうち、副学院長藤原導夫先生の司会により始められました。一同賛美、学院長代行の世



良田湧待先生の祈禱、そして一同賛美の後、増田蒼雄学院長よりエステル記4・14の「もしかすると、この時のためであるかもしれない」を引用されてOBIの設立経緯のお話がありました。

続いて音楽科講師の植木朋子先生の特別賛美がありました。曲名は「勝利のキリスト」で復活のキリストを賛美した歌です。昨日のイースターの喜びの余韻のある中、素晴らしい賛美に一同感謝いたしました。

その後、司会者により聖書(エペソ4・11〜16)が朗読され、引き続き浦和福音自由教会牧師の坂野慧吉先生よりメッセージを頂きました。

先生の40年近くになる牧会経験を踏まえてのお話でした。エペソ人への手紙4章と1コリント12章

から、教会にとって、特に牧師と信徒のバランスが大切であることを強調されました。

バランスが良ければ、教会に起きる問題も対処の仕方が一致を目標とするものとなる。信徒は、牧師を批判するのではなく、祈り、支え、励ますようにして欲しい。そのような信徒になるため、このOBIで学んで頂きたい。

新入生の方には学びの指針となるお奨めでした。

続いて一同賛美、頌栄の後、OBI教師、横山武先生の祝祷、そして後奏をもって式が終了いたしました。



ました。出席者は約50名でした。新入生の方々の学びが祝されますようお願いいたします。



# 学窓トピック

## 聖書科・音楽科

2010年3月6日(土)、午後1時よりOCC8Fチャペルにて第17回卒業式が行われました。聖書科本科5名、教会音楽科1名、計6名の

方々が学びを終えて、教会奉仕者として6団体6教会に遣わされました。出席者約50名。卒業生の卒業研究は次のとおりです。

中城昭治 「聖書に学ぶ教会形成の課題」

大淵セツ 「イエスのたとえ四福音書から学ぶ」

鈴木ますみ 「魂の自由を得た人マルチン・ルター」

高橋まりか 「牧師夫人とは何者か、ストレスとプレッシャーを軽減するために」

梅澤近子 「ドイツ敬虔主義とジョン・ウエスレーのメソディズム、シユペナーの Collegia Pietatis とウエスレーの組会の関わり」

2010年4月5日(月)、午後6時30分よりOCC8F

チャペルにて、入学式・始業式が行われました。聖書科本科10名、専修科1名、聴講2名、計13名、また教会音楽科、総合コース1名、選択コース1名、計2名の方々が入学されました。以下は前期の授業科目です。

○毎週火曜日

新約概論(増田誉雄)  
キリスト教説教入門

(藤原導夫)  
ヨハネの黙示録と福音書の黙示 (福井誠)

○毎週木曜日

旧約聖書の世界(飯島勅)  
聖書がわかる解釈学入門(山口勝政)

教会史(横山武)  
ヘブル人への手紙を読む(河村従彦)

○毎週金曜日  
聖書の世界(飯島勅)  
聖書がわかる解釈学入門(山口勝政)

教会史(横山武)  
ヘブル人への手紙を読む(河村従彦)

## 夏季スクーリング案内

軽井沢の恵みシャレーで開催されるOBIサマー・

スクーリングも今年で第15回目を迎えます。過去8年間にわたるテーマと講師の先生方は次の通りです。

「黙示録講義」生島陸伸先生、「現代に生きるキリスト者の霊性」中澤啓介先生、「共に生きる」堀肇先生、「黙示録の七つの教会」

山口昇先生、「教会生活の深まりを求めて」野田秀先生、「歴史は語る」横山武先生、「祈りはあなたが変える」池田博先生、「現代におけるキリスト者の倫理」泉田昭先生。

今年は特にOBI創立20周年を記念する特別企画が立てられました。「お茶の水聖書学院20周年―感謝と展望―」というテーマのもとにOCC理事長の村上宣道先生を迎え、OBI同窓会の方々の参加協力もいただき、参加者一同が二泊三日を共に過ごすスケジュールです。詳細につきましては、同封のサマー・スクーリング案内チラシをご覧ください。

## 2010年度 開講科目 時間割

授業時間	月	火	水	木	金	土
11:00 ~ 12:30		新約概論 増田誉雄		旧約聖書の世界 と概説(Ⅲ) 西 満	聖書の世界 飯島 勅	
13:30 ~ 15:00		キリスト教説教入門 藤原導夫		ヤコブの手紙解説 世良田湧侍	聖書がわかる解釈学 入門 山口勝政	
				研究科		
15:30 ~ 17:00		ヨハネの黙示録と 福音書の黙示 福井 誠		ホセア・アモス書 解説 水口 功	教会史 横山 武	
18:30 ~ 20:00		キリスト教人間学 堀 肇		*	ヘブル人への手紙を読む 河村従彦	

# 主と教会に仕える同窓生たち

第13期卒業生 阿部恵子

OBIで貴重な学びと交わりのチャンスが与えられましたことは色々な面で、その後の私の働きの財産になっています。この度は感謝を込めて、その一部を紹介させていただきます。

EC教団日本教区の第二教会として経堂めぐみ教会から生み出され、町田で開拓伝道を始め、今から12年前に相模原市に引越してきました。町田のときは駅から徒歩3分、貸しビルの5階で商店街



の中でしたが、今の場所は駅から徒歩1時間。県立と市立の大きな公園・総合体育館・温水プール・清掃工場に囲まれた、10軒の住宅の中の1軒ということで、地域の住民とは少し離れた場所でした。

しかし裏の雑木林の先は公園、隣は600坪の栗林で、若いファミリーや子どもがのびのび過ごせる自然豊かな開放感溢れる恵まれた環境でもありました。

『新しい宣教地にはきつと待っている人々がいる』と信じ、『地域のニーズに答える教会になるには』と導きを求めて祈りました。

その中で、『赤ちゃんから高齢者まで、共に生かしあう交わりを』とのヴィジョンが与えられました。具体的には保育園や教会学校と高齢者のケアセンターと一緒にあり、その働きを支える中間の年齢層がいる、という生かし合う交わりを築く教会の青写真があります。まだ全体像の実現には遠い道のりがあるように思えますが、その一歩は始まっています。

私は子どもに使命を持っていません。献身した最初からそうだったのではなく、青年や大人に対する伝道牧会をしていく中で生育歴が人の一生に大きな影響があることに気づいてからです。精神医学の聴講をしたりOBIではスクーリングをきっかけに堀先生のクラスで学び、母親の胎内にいるときから乳幼児期に人格の基礎がつけられ、子どもは愛されて育つべき存在であることを深く知りました。

子どもの良い育ちの為には育てる母親が幸せでなければ、と「お母さんのホッとするひととき」プロジェクトを始めました。神様の摂理のみ業により、子どもクニックで働く姉妹を通してファミリーサポートプログラムのひとつに組み入れてもらい、クニックに来るお母さん達を招きました。私はお茶とケーキを用意し、またお母さん達がゆっくりとひとときを過ごせるように子ども達を預かっています。牧師はお母さん達同士の交わり、また悩みを語る時をリードし最後に聖書を聞いて短くお話をしています。

これが続いていくうちに『遊ばせているこの子達にも神様の



愛と聖書を伝えたい』と思うようになり、2年前に保育士の姉妹と「グレースナーサリー・こひつじ園」を始めました。2、3才児対象、週1回でしたが今年から週2回の保育をします。お母さん達は月2回、交わりと聖書の学びをする「ミルトス会」に出席します。定員8名の小さなナーサリーですが、大きな恵みと祝福を頂いています。先ず、この働きに関わる信徒が10名以上起こされ、信仰が養われ、奉仕の喜びに与っています。

# 創立20周年準備状況報告

実行委員長 三浦喜代子

昨年5月以来今日まで、各委員会の会合と実務が順調に進められております。ひとえに多くの方々との熱い祈りとご支援によるものと深く感謝申し上げます。10月25日の記念式典を目指し、今後はスピード・アップしていかなければなりません。同窓生の方々からできることがあればお手伝いしますとお声が上がります、大いに励まされています。卒業後もOBIスピリットが燃え続けていることを強く実感しています。続いてお祈りください。

## 総務委員会広報から

戸川偕生

クリスマスチャン新聞とキリスト新聞に、OBI20周年広告を掲載することで具体案を検討しています。掲載時期は8月以降です。掲載のサイズは、クリスマスチャン新聞は全面一頁広告、キリスト新聞はそれより小さいサイズの予定です。

クリスマスチャン新聞の広告形式については、OBI関係者個人(教

師、同窓生他)の協賛名刺広告を考えております。また、クリスマスチャン新聞には広告掲載前に、OBI20周年についての記事を載せてもらうよう交渉する予定です。個人の協賛名刺広告の掲載要領については、まとまり次第お知らせしますので、関係者はご協力をよろしくお願い致します。

## 記念誌委員会から

中島總一郎

皆様からお寄せいただきましたOBIに係わる感想文も多数集まりました、恩師の先生方の祝辞などいろいろいただいております。また、資料も最終段階に近いくらいに整理が出来てきました。それは、年度別授業カリキュラム、特別講座歴、サマー・スクーリング歴、「聖書の世界」研修旅行歴、音楽科特別講座歴、教会音楽デー歴、音楽科コンサート歴、歴代講師一覧などです。現在は皆様からの寄稿文をパソコン入力し、文章表現、御言葉などの書式、様式基準や段落、誤字脱字校正をしたり、掲載写真の

選定、記載順序の検討などの編集段階に入っています。これが済みますと、印刷・製本へ発注することになります。

予定通り9月末には完成させ、式典当日、皆様にお手渡しできますようにお祈りくださり、期待してお待ちください。



## 式典委員会から

世良田湧待

このたびの20周年行事の目玉ともいべきイベントが本年10月25日(月)に予定されている創立20周年記念感謝会です。

これは、OBIに関わってきた教師、同窓会、後援会、卒業生と在校生、理事、参与、学院生の背後にあります教会の牧師、友人、支援団体などのご出席をいただき、ともに20年を数えるにいたった過去、そして現在における祝福、さらに来るべき将来への展望なども加えておおいに主を称えるときとしていただきたく企画されたものです。

当日のプログラムの予定では、メッセージ村上宣道師(OCC理事長)、来賓祝辞湊晶子氏(前東京女子大学学長)、飯島延浩氏(山崎製パン社長)、ベリー・ロス師(前在日ウエスレアン宣教師)等をお招きしています。

ぜひ、その日を覚えてお祈りいただければ感謝です。

## 総務委員会財務から

浪井弘子・杉山礼子

財務を担当するにあたり、身の引き締まる思いをしています。皆さま方からの貴いご献金をお預かりし管理させていただいています。が、すべての必要が満たされることを信じて日々祈り続けています。今後ともお祈りご支援をお願い致します。

# ヤコブの手紙解説

担当教師 世良田湧侍

新約聖書のなかで、終わりのほうに置かれている手紙ですが、時代的にはけっこう早く45年ごろに書かれたものと考えられています。

著者は、主の兄弟ヤコブですが、新約聖書中には4人のヤコブが見当たりますので、一人一人を当たってみると、やはり初代のエルサレム教会監督といわれたヤコブがそれにあたると考えられます。

この書はわずか4章ではありませんが、内容を読んでいくと、クリスチャンの信仰生活の、特に実践的な方面での光があたります。パウロも、信仰によって義とされた後のことを実際の勧告として、それぞれの手紙の後半で記しているのがわかりますが、ヤコブはそのような形にこだわらず、初めからクリスチャン人生に襲いかかる「試練」や、「知恵の必要」、「誘惑の問題」などを取り上げて、救い主を信じた者らしい生き方はど

うして対処するかなど、神に立てられ指導者の権威をもって賢く述べています。

短い手紙ですが、そのような実践的な話題を豊富に扱い、あまり教理的な論議はしていません。では神学はないのかと言うと、そうではなく「神」、「信仰と行為」、「終末への備え」、「実践的勧告」など生活に即して、取るべき態度を示しながら救われた人生の諸問題をいかに処理するかを教えているのです。

クラスでは、章をバラグラフごとに区切って、そのテーマを取り上げ、解説と質疑応答などを交えて考えながら学んでいきます。その中でお互いに自分の現実の課題や問題などを分かち合い、神の国へ入るには多くの苦難を経なくてはいけないというパウロや、知恵を必要とする人は、惜しげもなくお与えになる神に求めなさいという著者のように、実際にそれを追求しつつ味わっていきます。



## OBIの学びから 研究科 増尾邦子

4月からヤコブ書の授業を受けることになり、講義の初めに世良田先生のお話しを伺うことが出来て感謝しています。印象的な聖句を記してレポートに代えます。

「十字架の言葉は、滅んでいく者にとつては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です。」(コリント第一1・18)

この御言葉は、世良田先生にとつてハンマーで叩かれたような衝撃を受けたと、語っておられました。「自分が本当に滅びにいたる罪を、持っていることを知らずにいた情けない人間であるのに、神は愛してくださっていることを知って、涙の中に、イエス・キリストの御愛を受け入れた。」と、受洗のときの思い出をお証しされました。

さて、ヤコブ書の講義を伺って

みると、この書に抱いていた『わらの書簡』という先入観が、誤りであることに気が付いたので。ヤコブの手紙は外国に離散しているユダヤ人クリスチャンに宛てて書かれたものと言われますが、次の箇所からは、離散の民でもない私にとつても、強い信仰的な励ましをいただくからです。「わたしの兄弟たち、いろいろな試練に出会うときは、この上ない喜びと思いなさい。信仰が試されることで、忍耐が生じると、あなたがたは知っています。あくまでも忍耐しなさい。そうすれば完全で申し分なく何一つ欠けたところのない人になります」(ヤコブ1・2〜4)

私もかつて大きな試みに会い、信仰を失いかけた経験があります。そのときに私の支えになった御言葉を記します。

「シモン、シモン、サタンはあなたを、小麦のようにふるいにかけることを神に願って聞き入れられた。しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直つたら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」(ルカ22・31〜32) 感謝して。

# OBI会計報告 〓 09年業務概要 〓

(2009年12月16日～2010年4月20日)

OBIの働きは2010年3月から第10期に入り、先年度の活動報告とともに、会計決算報告をする時期となりました。恵み深い主のお陰により、昨年度も事業、経済ともに大過なく業務が続けられましたことは誠に背後にあります支援者の皆さまがたのお祈りと献金によるものであり、感謝いたします。

特に昨年は法改正にともない、11月までに従来の無限責任中間法人から一般社団法人へと登記変更をいたしました。関係者のご尽力により無事に登記が完了致しましたことをご報告いたします。名称、組織は変わりませんが、組織は変わることには変わりなく、構成員の共通の利益を求め、剰余金は分配しないでその法人の充実に用い、働きを通して主と教会の信徒の教育と人材育成に努めてまいりますのでよろしくご支援いただきますようお願いいたします。

## 2009年度OBI会計実績 (2009年3月～2010年2月)

単位 千円

当期収入	金額
授業料収入	9,026
後援会寄付	595
献金収入	11,031
助成金収入	3,000
その他収入	48
収入計	23,700
当期支出	
学事支出	8,690
行事支出	234
経費支出	14,150
その他支出	546
支出計	23,620
第9期収支残	80

## OBI献金

(氏名は献金日順)

### OBI協力献金

中島總一郎 吉村瑠美子  
戸川偕生 南澤貴美子  
梅澤近子 芳賀功  
横田孝子 小玉久美子  
石井由紀 川端安弘  
中島和子 玉松陽子  
田畑勝敏 鬼京由紀子  
小林享子 篠田一志  
宇田川智裕 高野富男  
松本逸子 藤村陽子  
真野悦子 安藤谷子  
西口修八 シムス由季子  
萩原滋 永井忠道

### 指定感謝献金

(退院感謝) 増田誉雄  
(卒業式祝) 飯島延浩  
浪井弘子

### OBI感謝献金

山田由美子 国東恵子  
絵鳩彰 関節子  
加茂康一・早苗、高崎公子  
内田怜子 声楽コース一同

## OBI後援会献金

後援会維持会献金

有田貞一 有田美榮子  
飯島多稼夫 猪狩友行  
小野沢恵子 金本悟  
木下順子 国東恵子  
窪井節子 小林喜久男  
斉藤とし子 佐藤敬  
増田誉雄 松岡常子  
須子都 三浦喜代子  
世良田湧侍 田中恵子  
中川和代 浪井弘子  
西満 平松庸一  
福井誠 藤原導夫  
増尾善文 宮本三枝子  
三浦秀彌 目崎由紀子  
森登、森本腹  
依田和子 植木朋子  
芳賀功 中島總一郎  
日名富子

### 後援会協力献金

羽鳥明 脇坂勇  
中山キリスト教会  
青野史子 長橋和彦  
長橋晴子 倉澤薫代

前橋上泉町教会

ホサナキリスト教会

練馬神の教会

### 20周年記念献金

(12月16日～4月20日)

島田裕子 伊藤洋子  
内田光子 安藤良一  
木元从 石塚幸子  
平田仁美 堀口容子  
才門正男 三友庸子  
古河教会 森登  
稲垣緋紗子 國松裕子  
尾原光彦 真野悦子  
田中君恵  
百合丘バプテスト教会  
町田恵子 加茂康一  
横田孝子 森井あずさ  
倉沢薫代 南澤孝夫・貴美子  
国東恵子 猪狩友行  
奥津晃 加来国生  
染谷多真慧 浪井弘子  
牧野三恵 中川和代  
阿部幸平 門馬正衛  
高橋美恵子 阿部直子  
植木朋子